今月の話題 No.301

サナダムシ

サナダムシという寄生虫の名を聞いたことはありませんか。サナダムシはカイチュウやギョウチュウなどとともにヒトの寄生虫の代表的なものです。

サナダムシは何の仲間

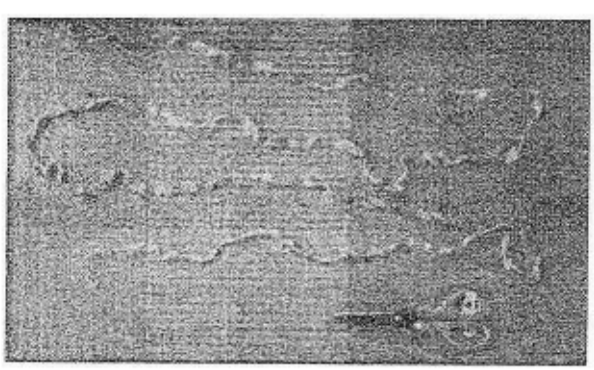
サナダムシは海岸にいるヒラムシ、湿地にいるコウガイビル、川にいるプラナリアなどとともに扁形動物という仲間です。これらは寄生虫ではありませんが、口は有っても肛門が無く、呼吸をするためのエラや血管もない原始的な動物です。必要な酸素は体の表面から直接、体中にしみこんでいきます。

このような寄生をしない仲間から寄生生活をする２つの仲間、すなわち、ジストマのなかま（ 吸虫 ）とサナダムシの仲間（ 条虫 ）が進化しました。特にサナダムシの仲間は、目も口も腸もなく、卵や精子を作る器官ばかりが大きくなっています。サナダムシには大型の種類がたくさんあり、ヒトにも寄生します。

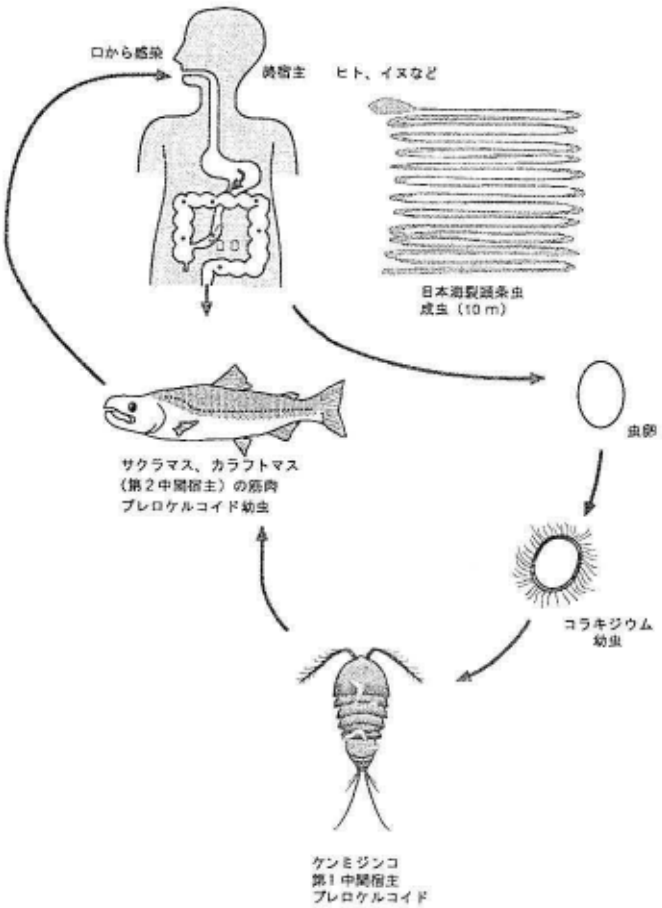
代表的なサナダムシ～日本海裂頭条虫～

10 メートルになる大きな種類で、幼虫は魚のサクラマスなどの筋肉にいますので、そのさしみや不完全に調理したものを食べると幼虫がヒトの体内に入り、小腸の壁に食いつき、体の中で分裂して増え、まるで「きしめん」のように平たく長い体になります。これがちぎれて便とともに肛門から出てきます。

この虫がいても大した症状は出ないことが多く、虫が出て初めて寄生されていることに気付く場合も多いようです。しかし、げりがおきたり、食欲が無くなったり、お腹が痛んだり、体重が減ったりします。ひどいと、めまいや息切れが起きることがあります。予防はマスを生や不完全な調理で食べないことで、十分加熱するかしっかり冷凍することです。



日本海裂頭条虫成虫



日本海裂頭条虫の一生

●その他のサナダムシ●

サナダムシの仲間には多くの種類があります。有名なものとして有鉤条虫（カギサナダ）、無鉤条虫（カギナシサナダ）が有ります。それぞれ、ブタ肉、牛肉を生で食べることで、幼虫が体に入ります。これらの肉を食べるときは十分熱を加えるとが必要です。最近ではキタキツネなどイヌ科の動物のフンに含まれる卵から感染する多包条虫（エキノコックス）の幼虫の寄生が有名ですが、これもサナダムシの仲間です。

●サナダムシを見よう●

富山市科学文化センターセンターでは4月26日から６月15日まで「毒虫・寄生虫展」を行います。サナダムシをはじめ、カイチュウ、アニサキスなどの寄生虫をはじめ、野外で出会う、毒虫や毒ヘビを展示します。ぜひ、ご覧ください。

（布村 昇）

富山市科学文化センター　http://www.tsm.toyama.toyama.jp
〒939-8084 富山市西中野町1-8-31　tel:076-491-2123 fax:076-421-5950